



2019年5月13日

各 位

上場会社名 株式会社エイジア
 代表者 代表取締役 美濃 和男
 (コード番号 2352)
 問合せ先責任者 経営企画室長 藤田 雅志
 (TEL 03-6672-6788)

特別損失の計上、2019年3月期連結業績予想値と決算値との差異 および役員報酬の減額に関するお知らせ

当社は、2019年3月期において特別損失を計上するとともに、2018年10月31日に公表いたしました2019年3月期通期連結業績予想値と本日公表の決算値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。
 また、これらの経営責任を明確にすべく役員報酬を減額することといたしましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 2019年3月期通期連結累計期間の業績予想数値と決算値との差異 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,790	420	420	275	円 銭 68.46
決 算 値 (B)	1,703	371	370	129	
増減額 (B-A)	△87	△49	△50	△146	
増減率 (%)	△4.8	△11.5	△11.8	△52.8	
(ご参考)前期通期実績 (2018年3月期)	1,523	348	361	236	57.98

2. 修正の理由

(1) 売上高

コンサルティング事業、オーダーメイド開発事業およびEC事業は、計画に対し順調に推移いたしました。

アプリケーション事業は、高価格帯クラウドサービスのSaaSプランについては、営業体制の再編・強化などにより初期売上が前期比141.3%、月額売上也前期比108.8%となりましたが、第4四半期に見込んでいた大型案件を失注いたしました。

また、低価格帯クラウドサービスのASPプランについては、長期利用が多いメール配信システムよりもキャンペーン運用目的で短期の利用が多いアンケートシステムの割合が増えたために、月額売上が伸び悩みました。

一方、ライセンス販売においては、大型案件が見込んでいたものの受注には至らず、当初見込んでいた売上高計画を下回りました。

(2) 営業利益および経常利益

上記の売上高要因に加えて、第4四半期において開発戦略を方針転換したことにより、当初見込んでいた

ソフトウェア資産計上額のうち約 14 百万円を資産計上せず費用計上することとなったことが計画を下回った主な要因です。

(3) 親会社株主に帰属する当期純利益

上記要因に加えて、下記のとおり、特別損失を計上したことが計画を下回った主な要因です。

3. 特別損失の計上について

上記の開発戦略の方針転換により、過去計上していたソフトウェア資産等の資産性が減少したため固定資産減損処理を行い、161 百万円の特別損失を計上いたしました。

4. 役員報酬の減額について

上記の 2019 年 3 月期の売上・利益実績が計画に至らなかったこと、開発戦略の方針転換により特別損失を計上することとなったことの経営責任を明確にするため、下記のとおり 2020 年 3 月期の役員報酬の減額を決定いたしました。

(1) 役員報酬減額の内容

代表取締役：月額報酬の 50%を減額(売上・利益計画未達成、特別損失の計上に関する責任)

専務取締役：月額報酬の 25%を減額(技術部門管掌、特別損失の計上に関する責任)

常務取締役：月額報酬の 25%を減額(営業部門管掌、売上・利益計画未達成に関する責任)

(2) 対象期間

2020 年 3 月期(第 25 期)の半期(6 ヶ月)分

以上